

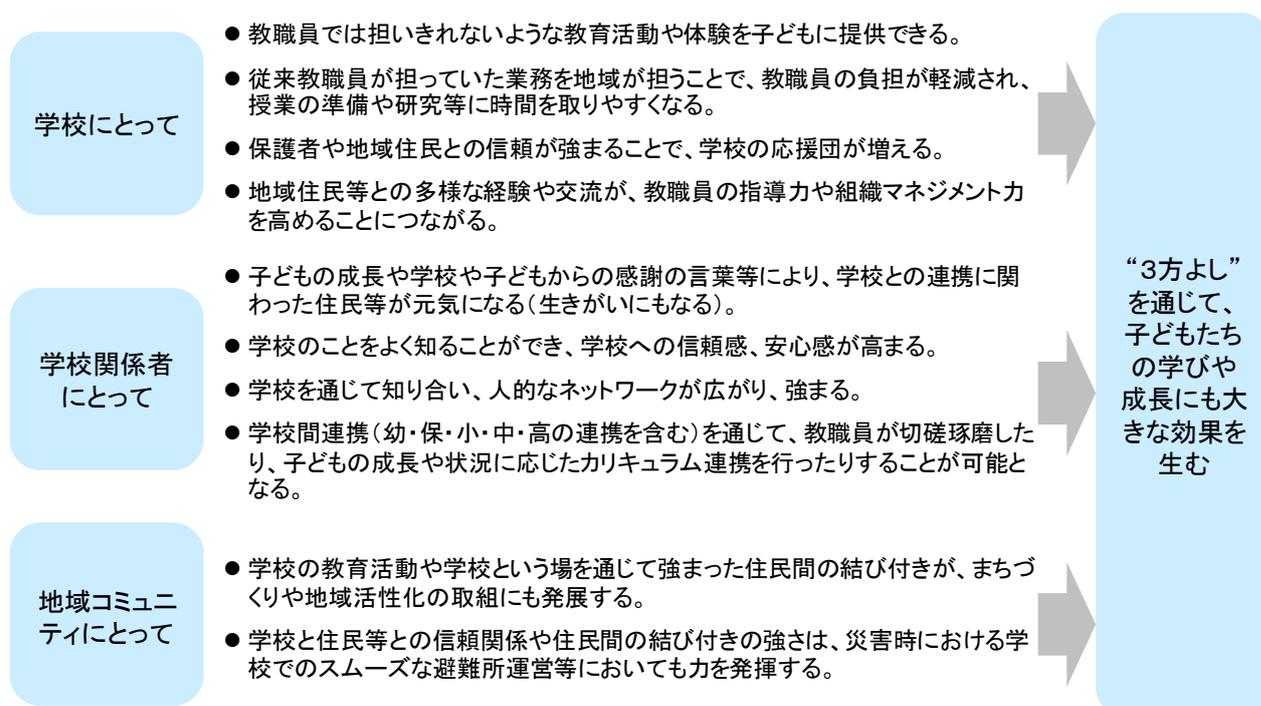
第5章 まとめ

1. 地域との連携を進める魅力

これまで、様々な事例を見てきたように、学校と地域との連携に関して多くの好事例が実践されている。一方で、アンケート調査等からの示唆されたように、連携が思うようには進まない学校・地域も少なくない。地域との連携に悩みをもつ学校・地域では、改めて、学校と地域が連携する意味は何か、メリットは何かについて考えてみる必要があるのではないだろうか。連携する目的や目標に関する共通認識が、学校内の教職員間で揺らいでいたり、地域住民と学校との間で思いにギャップが大きかったりすると、連携はうまく進まない。

協力者会議の提言の中にも「地域とともにある学校づくりにより得られる成果」（提言書 P.7、8）とあるように、学校と地域との連携を進める魅力には、事例調査等から少なくとも次のような点が考えられる（他の魅力もあると思われるが、代表的なものをピックアップした）。近江商人の考え方に「3方よし」（売り手よし、買い手よし、世間よし）というものがあるが、地域とも連携もそれに近いと考えられる。学校にとって、学校関係者（保護者、地域住民のみならず、接続校の教職員等を含めて考える）、地域社会、地域コミュニティにとってよい効果が連携の中では生まれており、子どもたちの成長や学びにも大きな効果を発揮している。

学校と地域との連携を進める魅力

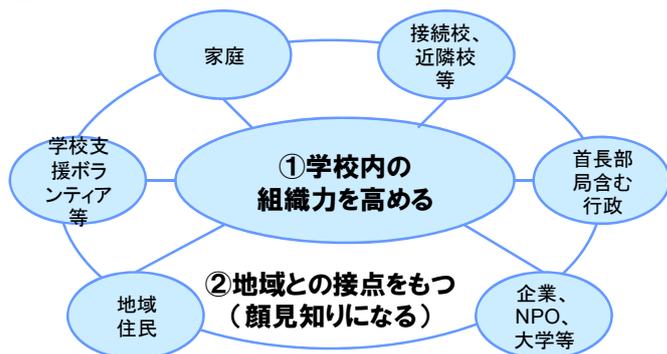


2. 地域との連携を進めるステップ

本調査研究から示唆されることは、好事例で紹介した事例の多くが、はじめから連携がうまく進んだわけではなく、徐々に進んだという点である。学校や地域の実情に応じて、様々な進め方は考えられるが、代表的なものは、次の5つのステップに分けられる。

地域との連携を進めるステップと基礎となること

■ネットワークづくり



■ネットワークの活用

③小さなことからでも、学校と地域がともに汗をかいたり、知恵を出したりする

④学校と地域の互いの信頼感、ソーシャル・キャピタルが向上

⑤学校でのネットワークをまちづくりや地域活性化にも展開

■基礎となること (コミュニティ・スクールや学校評価、学校支援地域本部等は下記を進める上で効果的なツール)

(ア)学校と地域との情報の共有と意思の共有

(イ)具体的なアクションの実行と学習の共有

①学校の組織力を高める

地域との連携を進めることについて、学校内の教職員の思いがバラバラでは、広がりをもった取組とならないし、継続性も低い。端的には、地域との連携に先立ち、学校の中をうまくまとめることが最初のステップである。

この点については、「熟議」を通じて教職員の忌憚のないディスカッションの中から、地域との連携を含む学校づくりの目標やその必要性等の思いを具体的に共有したり、学校評価等を活用することで学校の組織マネジメント力を高めたりする事例が見られた。

②地域との接点をもつ (顔見知りになる)

次に、学校の教育活動への支援や学校という場を活用した行事や活動 (学校の環境整備や放課後の子どもの学習支援等) を通じて、学校が地域との接点をもつこと (あるいは接点を増やすこと)、また、参加した人が顔見知りになることが重要である。顔見知りの関係なくして、連携が十分に進むとは考えにくい。

ここでは、地域と書いたが、事例からも示唆されるように、学校は、保護者や住民のみならず、企業やNPOと連携することや、接続校等との学校間連携を図ること、また、教育

委員会と首長部局が連携することも重要なケースもある（生涯学習担当やスポーツ担当等が首長部局となっている自治体もあるし、まちづくりや福祉に関する部局と教育委員会が連携するケースもある）。

以上①、②は、地域との連携について、ネットワークを形成するという段階である。次に、そのネットワークを活用するという段階となる。それは次の③～⑤に分けることができる。

- ③小さなことからでも、学校と地域がともに汗をかいたり、知恵を出したりする
- ④学校と地域の互いの信頼感、ソーシャル・キャピタルが向上
- ⑤学校でのネットワークをまちづくりや地域活性化にも展開

顔見知りになっても、すぐに「協働」という展開になるとは限らない（会議はあるものの、形骸化してしまっているようなケースもある）。前述したように、実際何か具体的なアクションを小さなこと、身近なことからでも行っていくことが重要であり、ともに汗をかいたり、知恵を出したりする中で、連携のよさ、魅力を学校も学校関係者も感じ取ることができる。

そうした「協働」を通じて、学校と地域は互いの信頼感を高めることが期待される。また、連携に参加した住民同士も結び付きが強まり、信頼関係ができる。そうしたネットワークや信頼、連帯は、「ソーシャル・キャピタル」とも呼ばれ、学校や地域コミュニティの資源となる。

第4章で紹介したように、学校という場で知り合った住民がまちづくりや地域活性化に取り組む例や、学校が地域に貢献するような例が見られる。学校を拠点とした地域づくりや、学校からのまちづくりという動きも出始めている。

このように、学校を通じた地域の中のネットワークの強化は、学校の教育活動の充実や子どもにとっての多様な学びの場となるという側面に加えて、大人同士の学びとなったり、地域コミュニティの安心や活性化に資することにもつながりうる。

以上述べたような各ステップを進めるうえで共通して基礎となるのは、学校と地域との情報の共有と思いの共有である。地域にとって情報の不足する中では、学校へ協力できることを探すのに苦勞するし、情報が閉じている中では、学校への信頼感は生まれにくい。情報の共有は、ネットワークの形成期にも活用期にも、重要である。

併せて、学校と地域との思いの共有とは、連携する意味や問題意識、目的・目標についての意識合わせをすることを指す。思いの共有が強いかどうか、またどの程度浸透しているかが、地域との連携が最初は小さなことからでもだんだん広がっていったり、支援する人材が増えたりすることに関係する。

最後にやや繰り返しとなるが、地域との連携は、ともに汗をかいたり、知恵を出したりする具体的なアクションを通じて、強まっていく。また、教職員には定期的な異動があり、地域の側もずっと同じ人がリーダーシップを発揮したり、コーディネーターとして活躍したりできるとは限らない。具体的なアクションを通じて、明らかになった課題や改善点等を学校と地域との間で共有して、引き継ぐ中で、連携を発展させていくことも重要である。

参考資料1 学校と地域との連携に関するアンケート結果

1. アンケートの概要

①アンケートの主旨

平成23年度「地域とともにある学校づくり」推進協議会（文部科学省主催）²は、先進的な取組を行う教育委員会による取組事例の発表や参加者の熟議を通じて、地域とともにある学校づくりの充実に向けた議論を深める目的で、平成23年7月から11月にかけて全国6か所で開催された。本アンケート調査は、協議会の当日、参加者に対して、地域と学校との連携の現状を把握する目的で、実施したものである。6会場合計で1,301³の回答を得た。

アンケートにて把握した主な内容は次のものである。

- 協議会について（各プログラムの満足度、コミュニティ・スクールへの理解の状況など）
- 地域との連携の現状（取り組んだ達成感、取組状況など）
- 学校の組織運営・マネジメントの現状（取組状況、地域との連携と組織運営・マネジメントの関係など）

以下では、この順に沿って、アンケートの結果分かったことや示唆されることについて、整理している。

² 地域とともにある推進協議会の概要、配布資料等については文部科学省の下記のウェブページを参照。

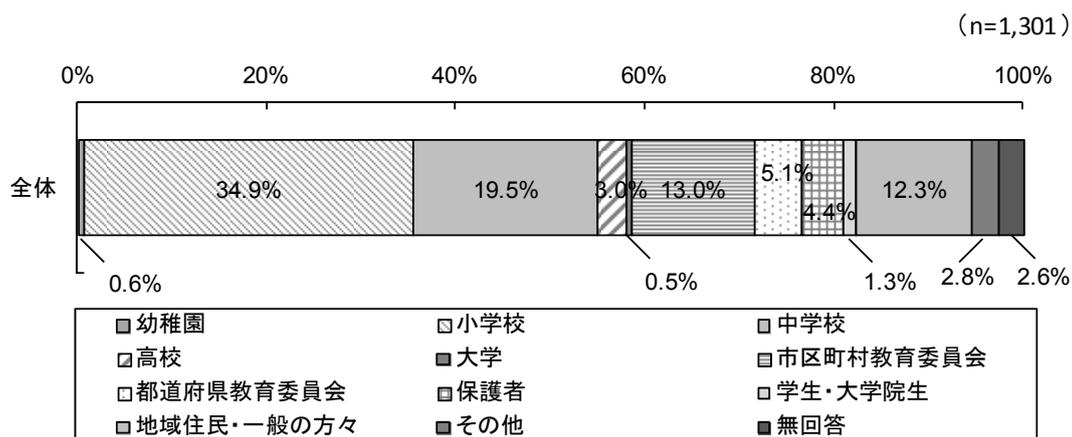
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/suishin/detail/1313050.htm)

³ 設問（巻末資料参照）によっては、回答者が教育委員会と学校教職員に限ったものもある。また、無回答を除いて集計している関係で、設問によって回答数は異なる。

②アンケート回答者の属性

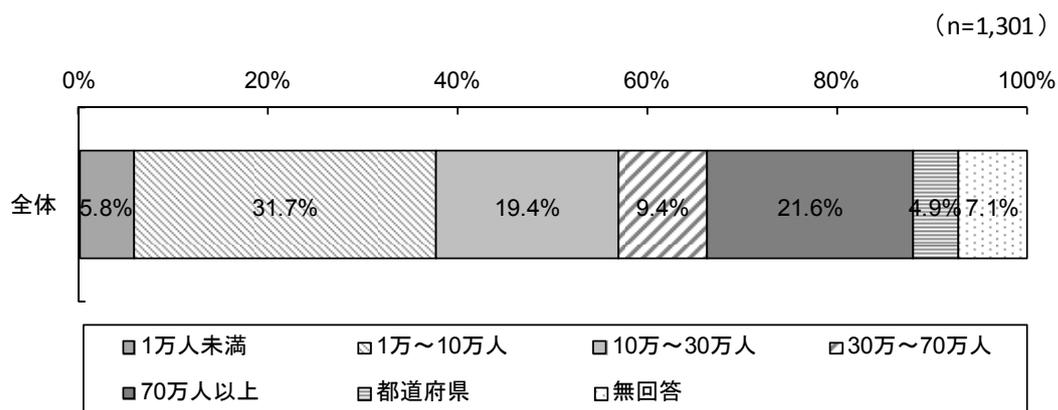
回答者の所属（勤務先等）と所属する市町村の人口規模について整理した。所属（勤務先等）について、回答者全体ではグラフ 1-1 のようになった。

グラフ 1-1：回答者の所属（勤務先等）（全体）



人口規模⁴について、回答者全体ではグラフ 1-2 のようになった。また協議会の開催地別ではグラフ 1-4 のようになった。

グラフ 1-2：回答者居住地の人口規模（全体）



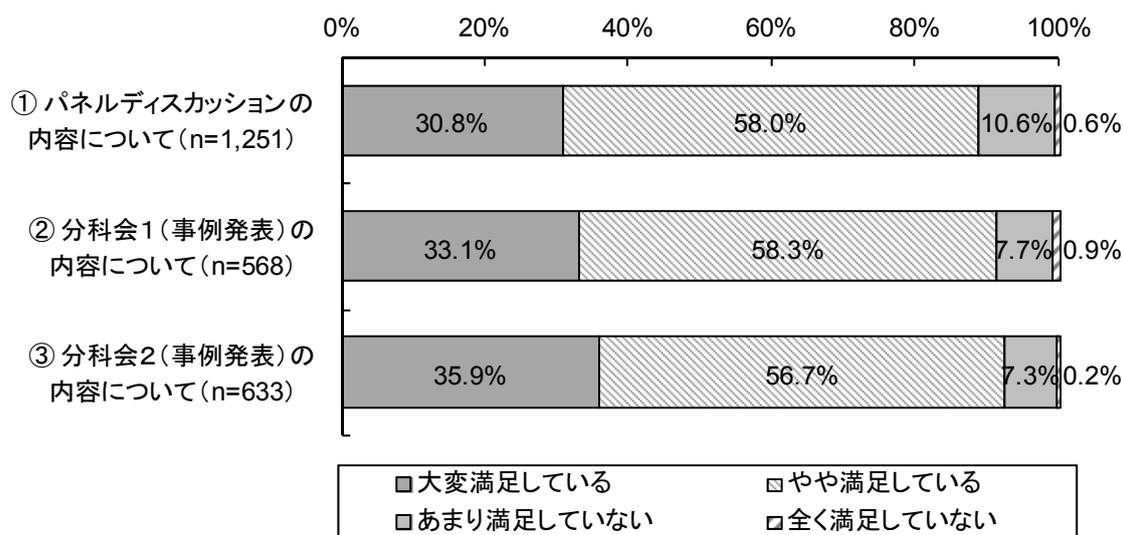
⁴ 所属する市町村の人口（※ただし都道府県教育委員会職員は都道府県と回答）

2. 協議会について

①プログラムの満足度

協議会は「パネルディスカッション」、「分科会 1」、「分科会 2」の 3 部構成で行われた。各部の参加者の満足度は、グラフ 2-1、2-2 の通りである。約 9 割が肯定的に評価している。

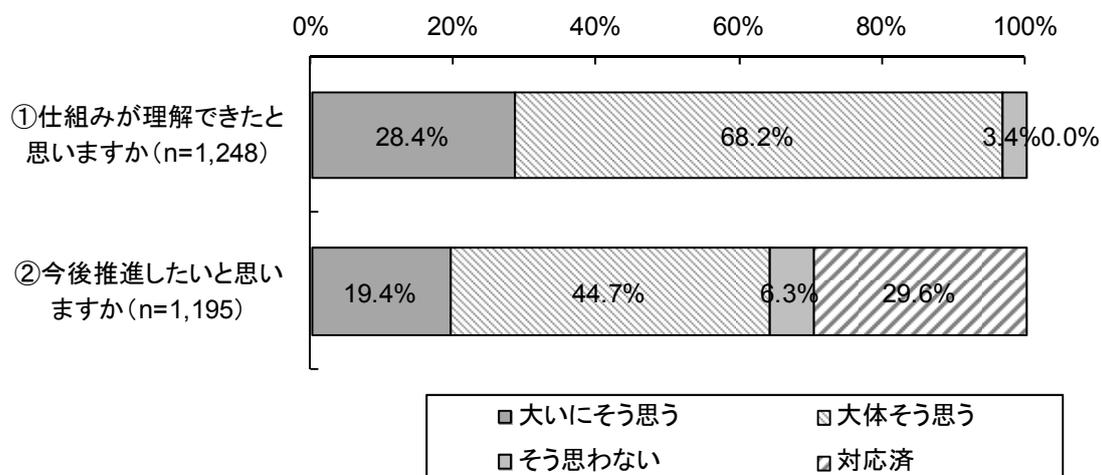
グラフ 2-1：参加者の満足度(全体)



②コミュニティ・スクールへの理解

協議会の参加者のコミュニティ・スクールへの理解度は、グラフ 2-2 通りである。

グラフ 2-2 参加者のコミュニティ・スクールへの理解度・意欲度 (全体)



3. 地域との連携の現状について

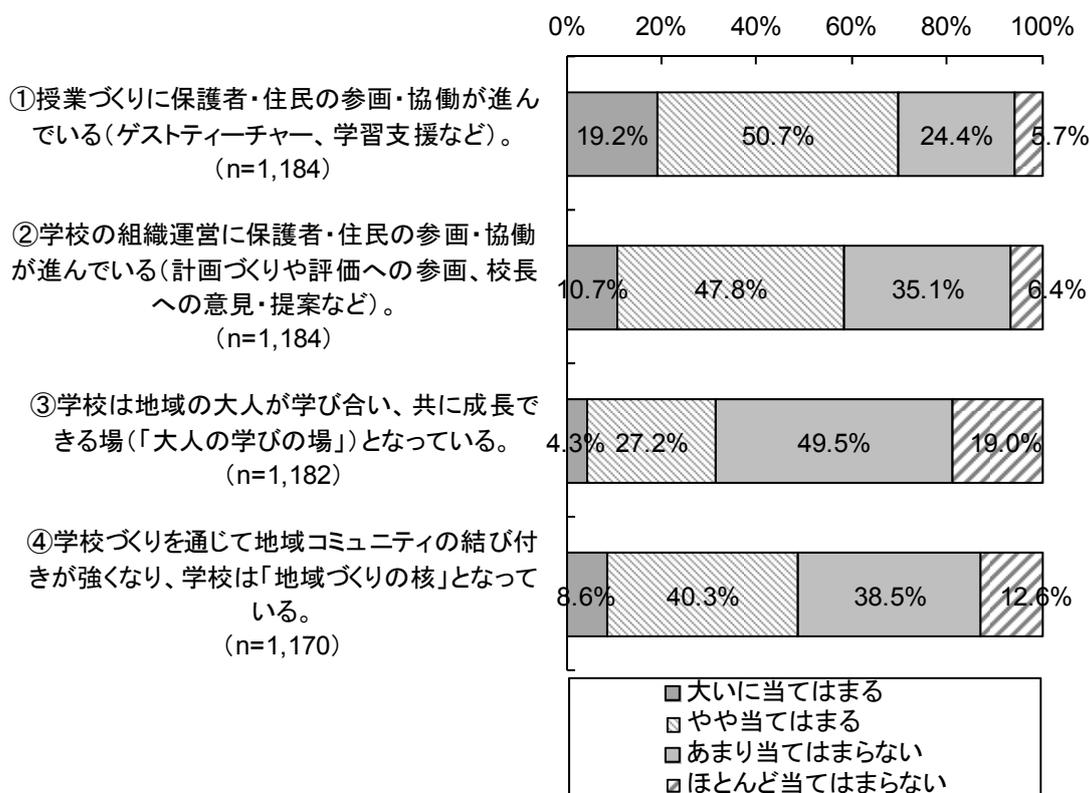
①地域との連携の現状

学校と地域との連携の現状について、具体的な活動内容は様々なものが考えられるが、取り組んだ達成感について、本アンケートではグラフ 3-1 の4つに分けて調査した。

グラフ 3-1 から分かる通り、「①授業づくりに保護者・住民の参画・協働が進んでいる」という項目に対して、「大いに当てはまる」、「当てはまる」を選択した回答者は、全体の約7割に達し、多くの学校が取り組んでいる実感を持っていることが分かった。もっとも、約3割は否定的な回答であった。

他方、①以外の質問項目に対しては、取り組んでいる学校とそうではない学校に分かれた。特に③の「大人の学び場」となっているかどうかについては、「大いに当てはまる」、「当てはまる」を選択した回答者は約3割にとどまり、そのような学校は少ないということが分かった。学校が「大人の学び場」となることや「地域づくりの核」となることについては、現状ではあまり取り組んでいない学校も多いことが分かった。

グラフ 3-1：地域との連携の現状



②地域との連携に関わる取組状況

学校と地域との連携に関して、下記の6つの観点から各学校の取組状況を調査した。

- ・ 地域との情報提供・共有（質問項目①・②）
- ・ 地域との目標共有（質問項目③）
- ・ 地域住民等が学校運営に意見を述べる取組（質問項目④）
- ・ 地域との連携を促すツール・仕掛けに関する取組（質問項目⑤・⑥・⑦・⑧）
- ・ 地域の声を学校運営に反映・具体化する取組（質問項目⑨・⑩）

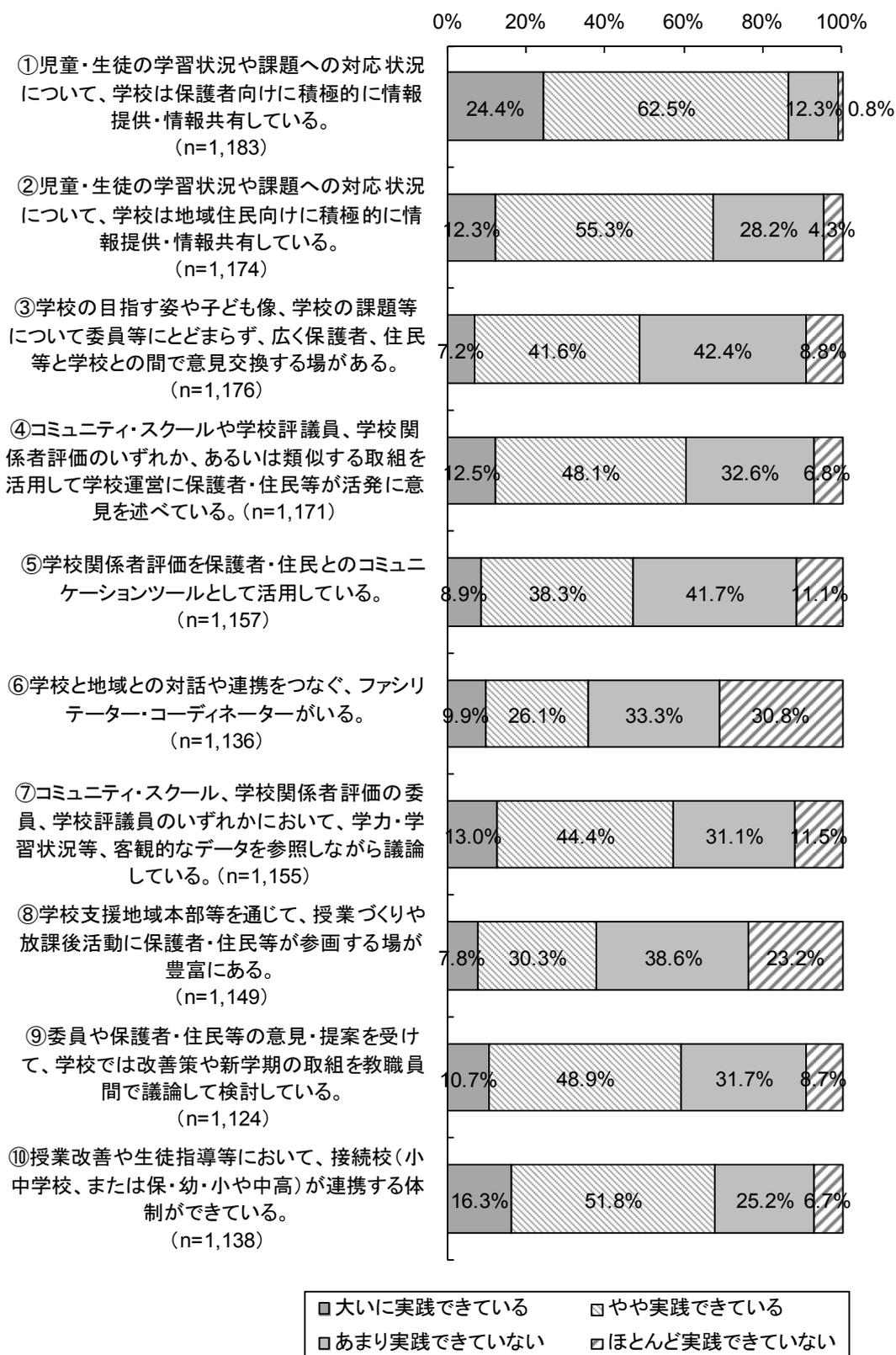
グラフ 3-2 から分かる通り、下記の3つの質問項目に対して約7割近くの回答者が「大いに実践できている」「やや実践できている」と回答した。地域との情報共有や、教職員の学校間連携という点では、よく取り組んでいるという実感を持つ学校が多いことが分かった。

- ① 児童・生徒の学習状況や課題への対応状況について、学校は保護者向けに積極的に情報提供・情報共有している
- ② 児童・生徒の学習状況や課題への対応状況について、学校は地域住民向けに積極的に情報提供・情報共有している
- ⑩ 授業改善や生徒指導等において、接続校（小中学校、または保・幼・小や中高）が連携する体制ができている

その一方で、下記の4つの質問項目に対して「大いに実践できている」「やや実践できている」と回答したのは5割未満であった。地域との目標共有や地域と連携を促すツール・仕掛けに関しては、取り組んでいないと認識している学校も多いことが分かった。

- ③ 学校の目指す姿や子供像、学校の課題等について委員会等にとどまらず、広く保護者、住民等と学校との間で意見交換する場がある
- ⑤ 学校関係者評価を保護者・住民とのコミュニケーションツールとして活用している
- ⑥ 学校と地域との対話や連携をつなぐ、ファシリテーター・コーディネーター人材がいる
- ⑧ 学校支援地域本部を通じて、授業づくりや放課後活動に保護者・住民等が参画する場が豊富にある

グラフ 3-2：地域との連携に関わる取組状況



以上から分かる通り、「地域との情報提供・共有」は比較的多くの学校で取り組まれているものの、「地域との目標共有」や「地域住民等が学校運営に意見を述べる取組」、「地域との連携を促すツール・仕掛けに関する取組」については、「大いに実践できている」との回答は1割前後であり、十分に取り組んでいる学校は少ない。また、「地域の声等を学校運営に反映・具体化する取組」についても、「大いに実践できている」との回答は1割前後であり、否定的な回答も3～4割ある。情報提供・共有から一步深まった地域との連携を行うためには、現状よりも踏み込んだ取組を行うことが重要と考えられる。

次にグラフ 3-3 では、①～⑩の質問項目の中で多くの学校が特に重要だと思うものを調査した。その結果、「③学校の目指す姿や子ども像、学校の課題等について委員等にとどまらず、広く保護者、住民等と学校との間で意見交換する場がある」が最も多いことが分かった。このように目標の共有は、地域との連携を図るうえで、最初のステップのひとつとなるとも考えられることから、重要との認識が多いものと推察される。また、この項目は、地域との連携に関わる取組状況において「大いに実践できている」と回答した学校が①～⑩の中で最も少なかったものであり、今後の重要な課題であると多くの学校が認識していることも分かった。

同様に、多くの学校が「ほとんど実践できていない」と認識していた「⑥学校と地域との対話や連携をつなぐ、ファシリテーター・コーディネーターがいる」、「⑧学校支援地域本部を通じて、授業づくりや放課後活動に保護者・住民等が参画する場が豊富にある」という点についても重要な取組として見ている学校が多かった。これらも今後の重要な課題であると言える。

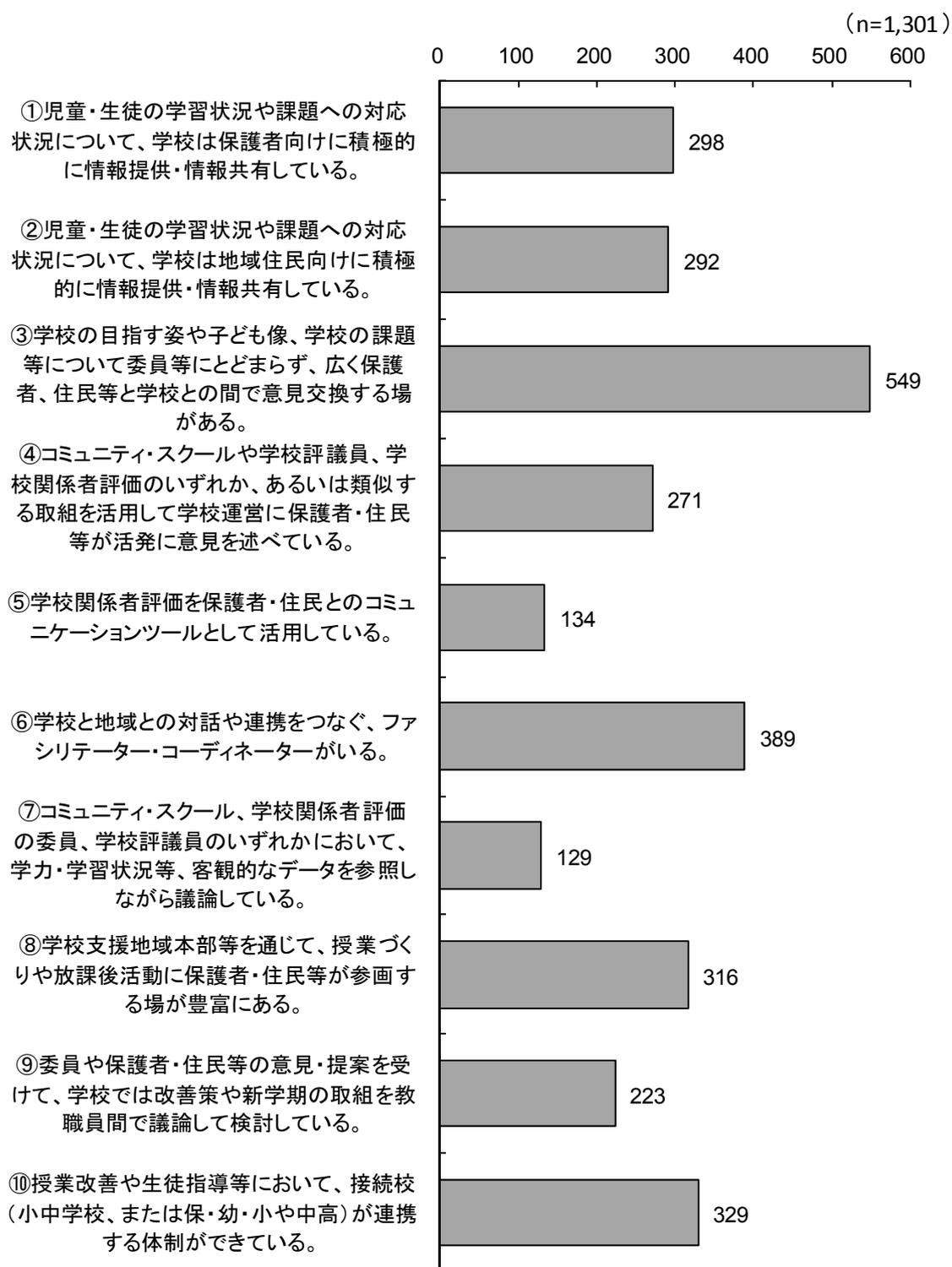
③地域との連携の現状と、地域との連携に関わる取組状況の関連性

グラフ 3-4、3-5 では、地域との連携の現状に関する「授業づくりに保護者・住民の参画・協働が進んでいるか」という質問項目における回答によって、下記のように回答者をグループ分けし、各グループの地域との連携に関する取組状況を比較した。

- ・ グループ A : 授業づくりへの参画・協働が進んでいることに「大いに当てはまる」と回答した学校
- ・ グループ B : 同質問に「あまり当てはまらない」または「ほとんど当てはまらない」と回答した学校⁵

⁵ 「やや当てはまる」との回答は、肯定的な回答ではあるものの、「大いに当てはまる」との回答と比べて達成実感は弱いことから、好事例を抜き出す観点からグループ A には含めなかった。

グラフ 3-3：特に重要だと思う地域との連携に関わる取組



グラフ 3-4、3-5 から分かる通り、地域との連携に関する各取組について「大いに実践できている」「やや実践できている」と答えた回答者の割合は、グループ B よりもグループ A の方が高かった。このことから、授業づくりに保護者・住民の参画・協働が進んでいる学校（グループ A）では、全般的に地域との連携活動を積極的に取り組んでいることが分かった。グラフ 3-3 で最も多くの学校が特に重要な取組として挙げていた「③学校の目指す姿や子ども像、学校の課題等について委員等にとどまらず、広く保護者、住民等と学校との間で意見交換する場がある」については、グループ A では約 7 割程度の学校が「大いに実践できている」「やや実践できている」と答えていた。

その一方で授業づくりに保護者・住民の参画・協働が進んでいない学校（グループ B）では、地域との連携活動について全般的に消極的であった。特に「⑥学校と地域との対話や連携をつなぐファシリテーター・コーディネーターがいるか」、「⑧学校支援地域本部等を通じて、学校づくりや放課後活動に保護者・住民等が参画する場が豊富にあるか」という質問項目に対しては、「大いに実践できている」「やや実践できている」と答えた回答者は 1 割程度に過ぎなかった。

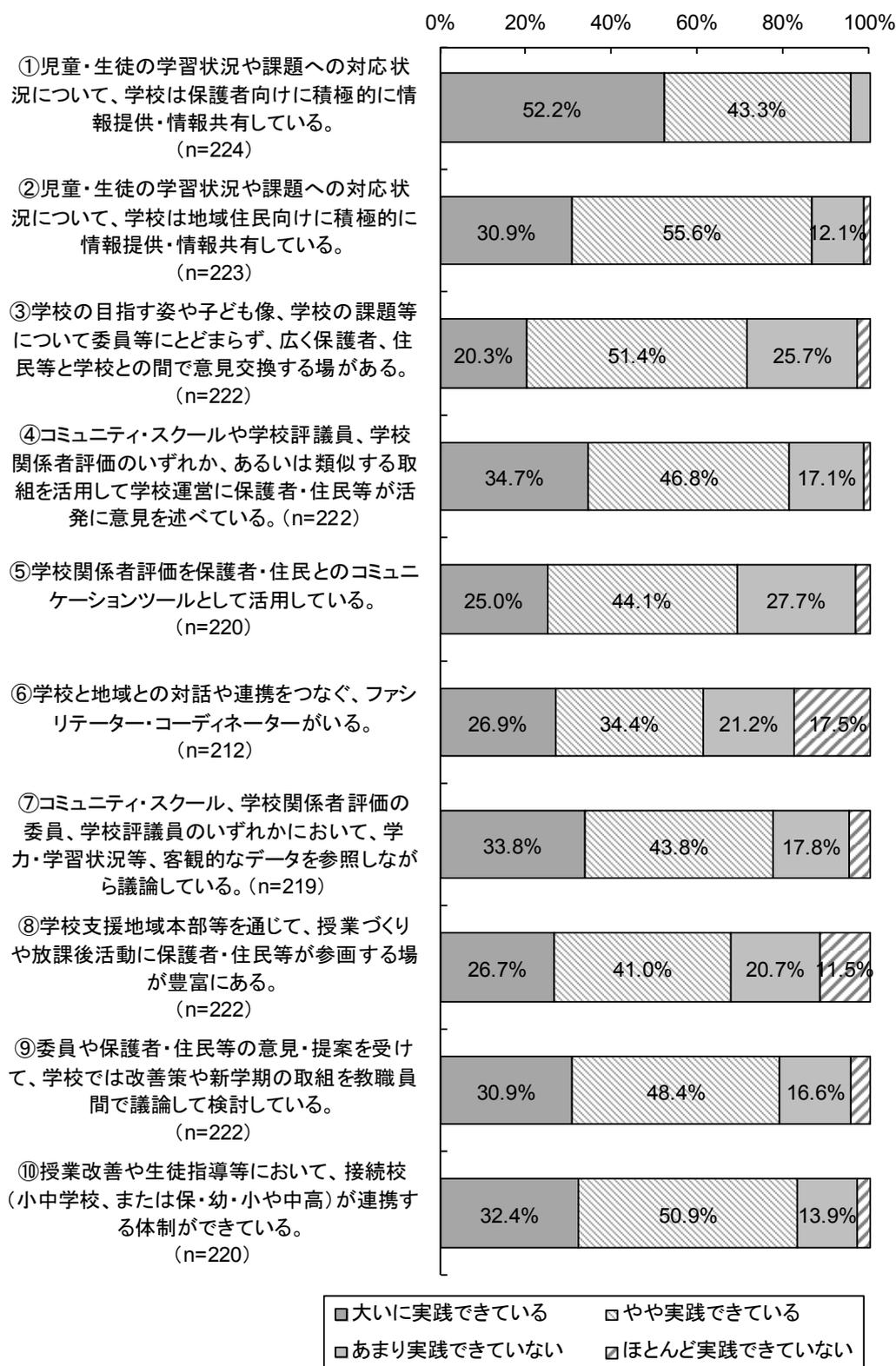
また「③学校の目指す姿や子ども像、学校の課題等について委員等にとどまらず、広く保護者、住民等と学校との間で意見交換する場がある」については、「大いに実践できている」「やや実践できている」と答えた回答者の割合は約 3 割にとどまっており、グループ A と大きな差が開いていることが分かった。

さらにグループ B では、「⑨委員や保護者・住民等の意見・提案を受けて、学校では改善策や新学期の取組を教職員間で議論して検討しているか」という質問項目に対しては、「あまり実践できていない」「ほとんど実践できていない」と答えた回答者が 5 割を超えていた。このことから、多くの学校では保護者・住民の意見を十分には学校運営に反映出来ていないことが予想される。

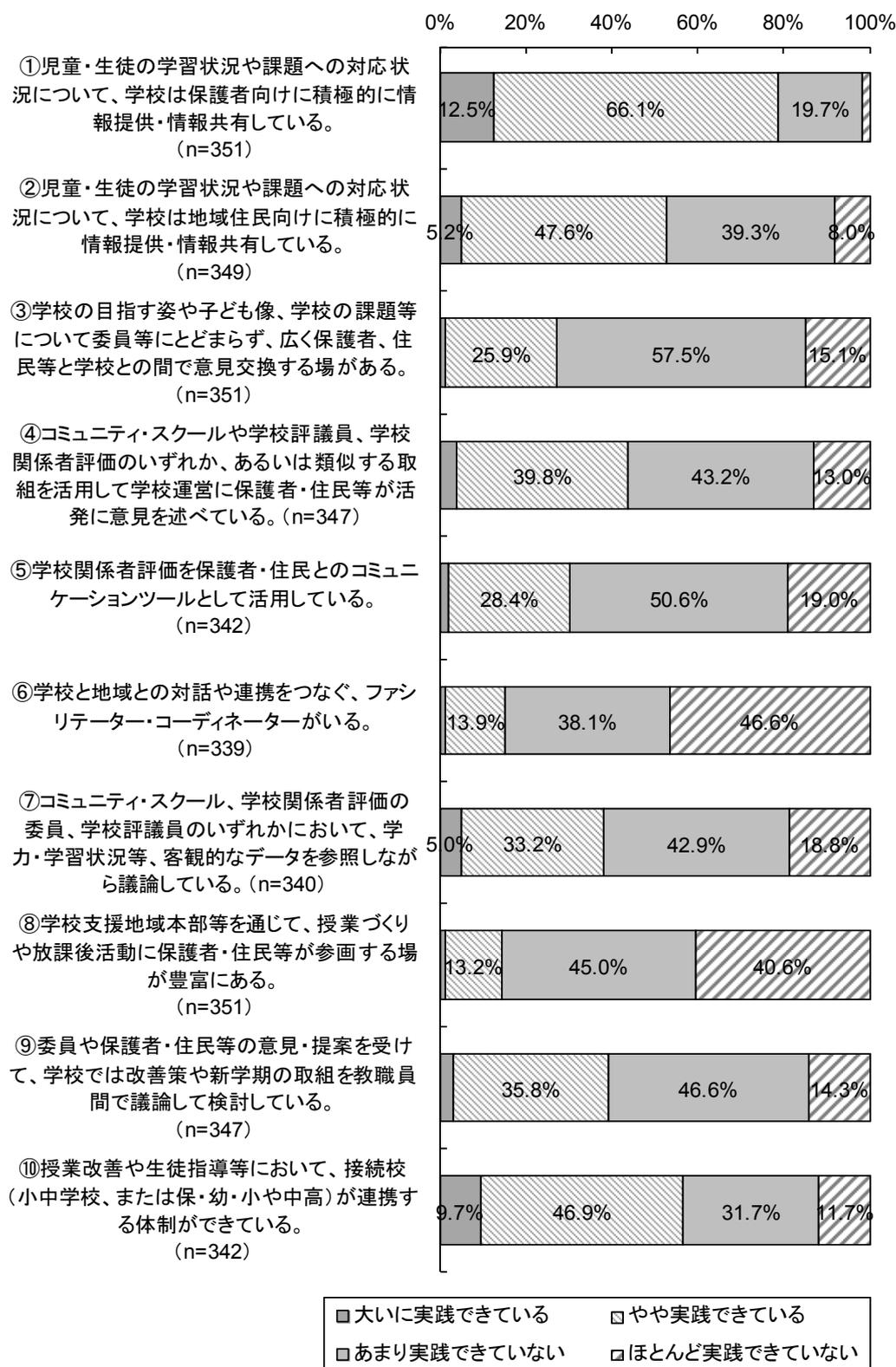
こうした特徴は他の分析結果からも同じように示唆される。地域との連携の現状に関する下記の質問項目について、同様に 2 グループに分けて比較する（グラフ 3-6 から 3-11）と、グラフ 3-4、3-5 と同様の傾向が現れていた。

- ・ 学校の組織運営に保護者・住民の参画・協働が進んでいる（計画づくりや評価への参画、校長への意見・提案など）（グラフ 3-6、3-7）
- ・ 学校は地域の大人が学び合い、共に成長できる場（「大人の学びの場」）となっている（グラフ 3-8、3-9）
- ・ 学校づくりを通じて地域コミュニティの結び付きが強くなり、学校は『地域づくりの核』となっている（グラフ 3-10、3-11）

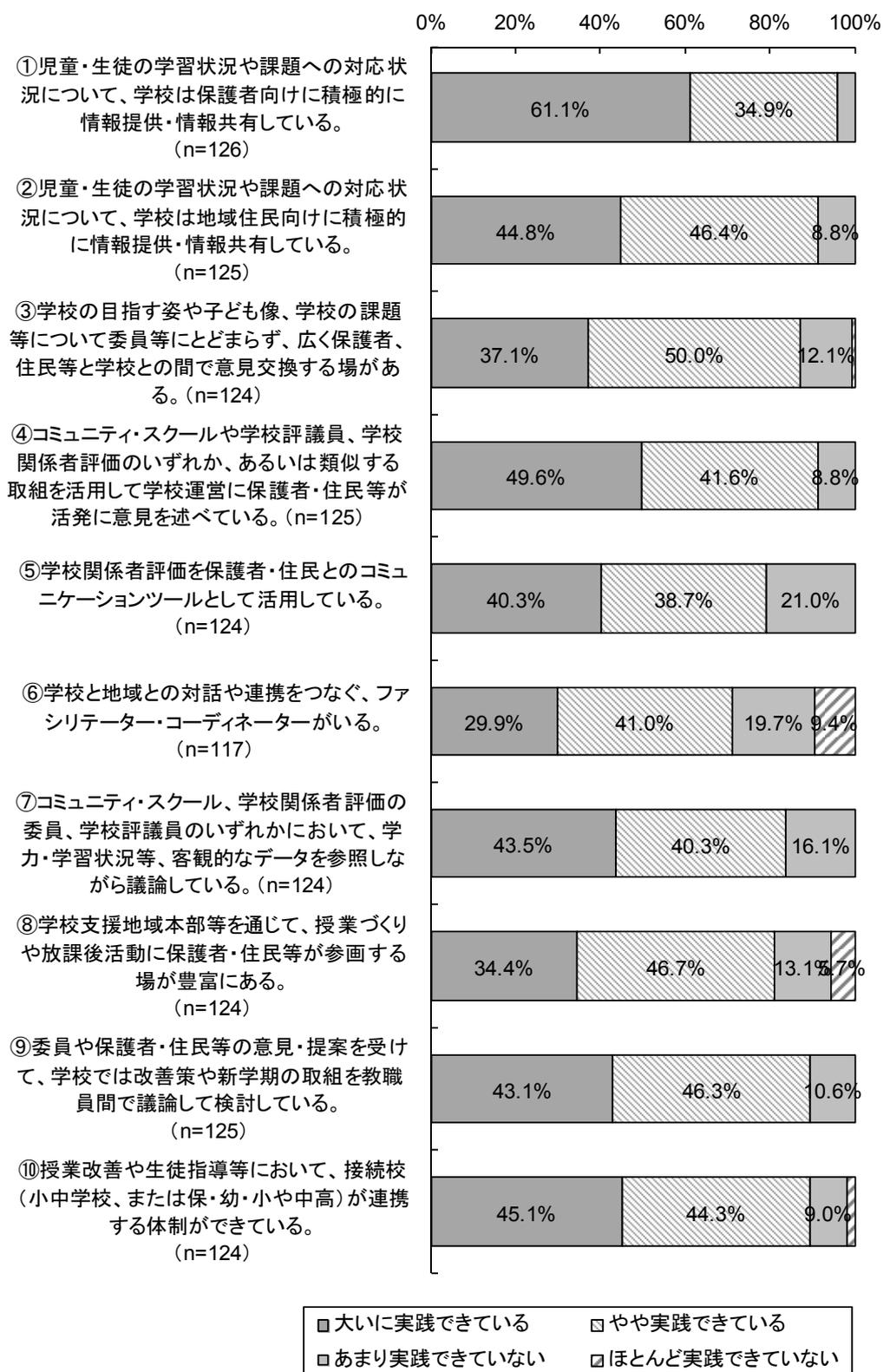
グラフ 3-4：授業づくりに保護者・住民の参画・協働が進んでいる学校の
地域との連携活動の取組状況（グループ A）



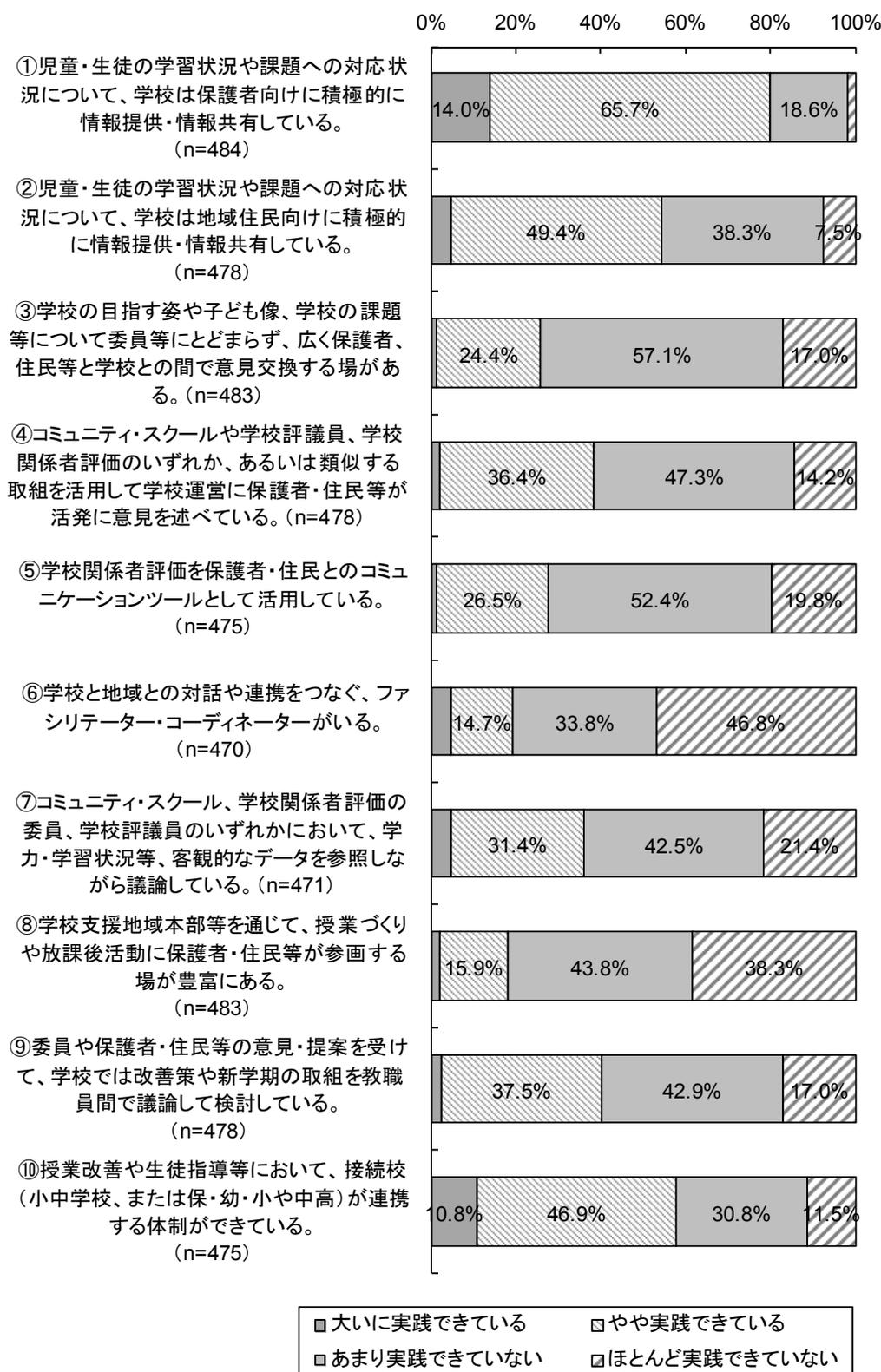
グラフ 3-5：授業づくりに保護者・住民の参画・協働が進んでいない学校の
地域との連携活動の取組状況（グループ B）



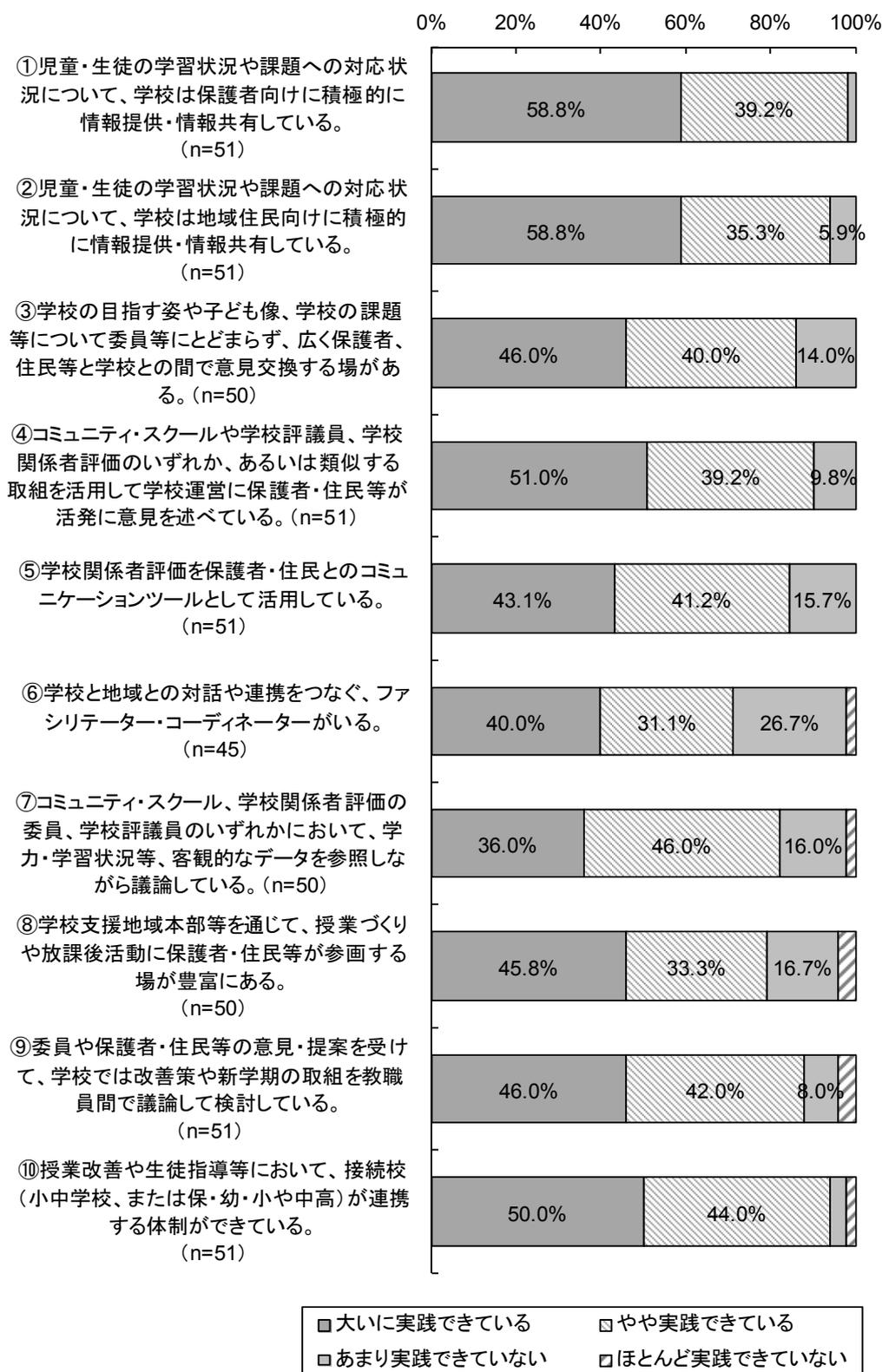
グラフ 3-6：保護者・住民等の意見を踏まえた改善策を議論している学校の
地域との連携活動の取組状況（グループ A）



グラフ 3-7：保護者・住民等の意見を踏まえた改善策を議論していない学校の
地域との連携活動の取組状況（グループ B）

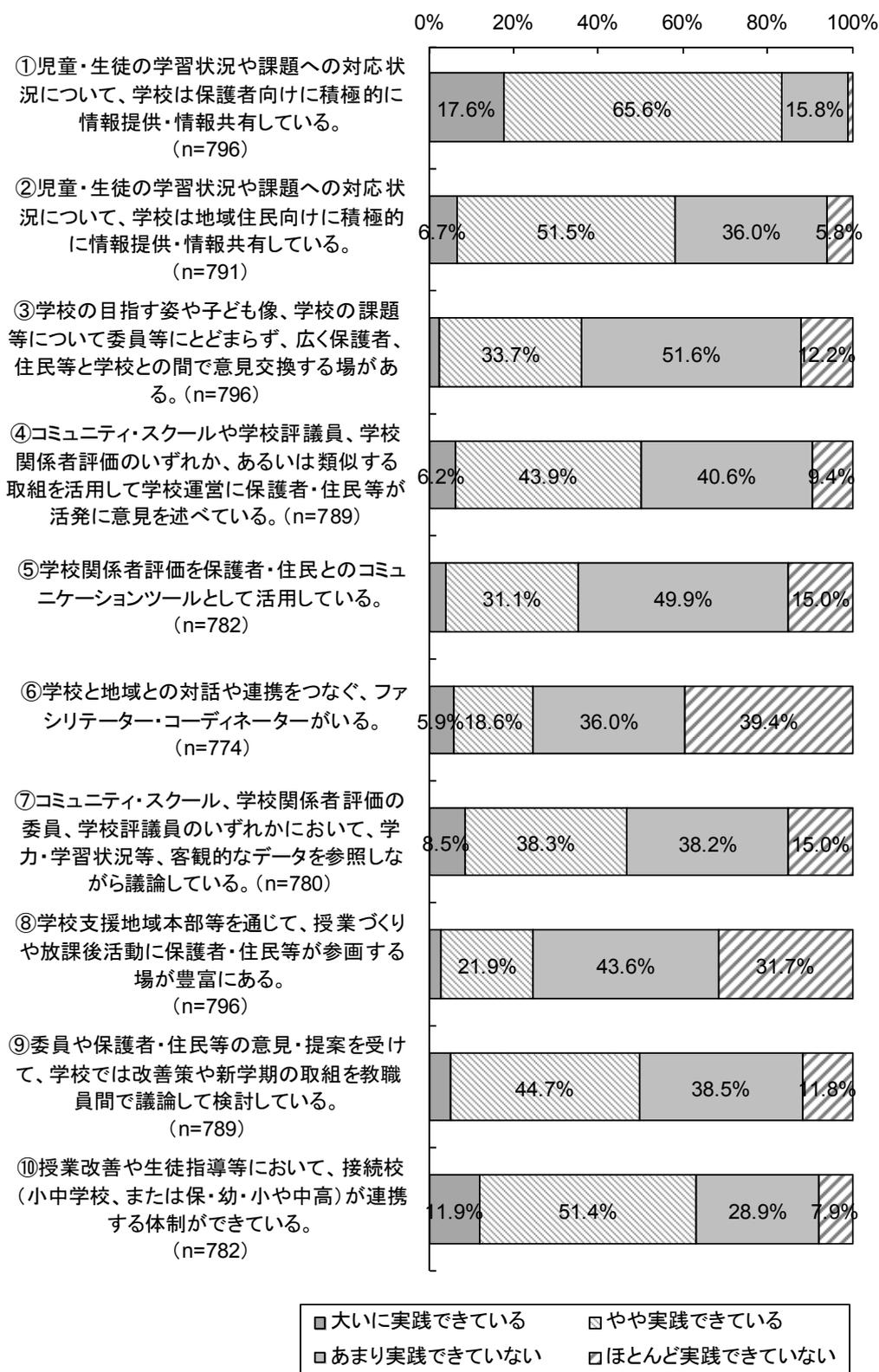


グラフ 3-8：地域の大人が学び合い、共に成長できる場となっている学校の
地域との連携活動の取組状況（グループ A）

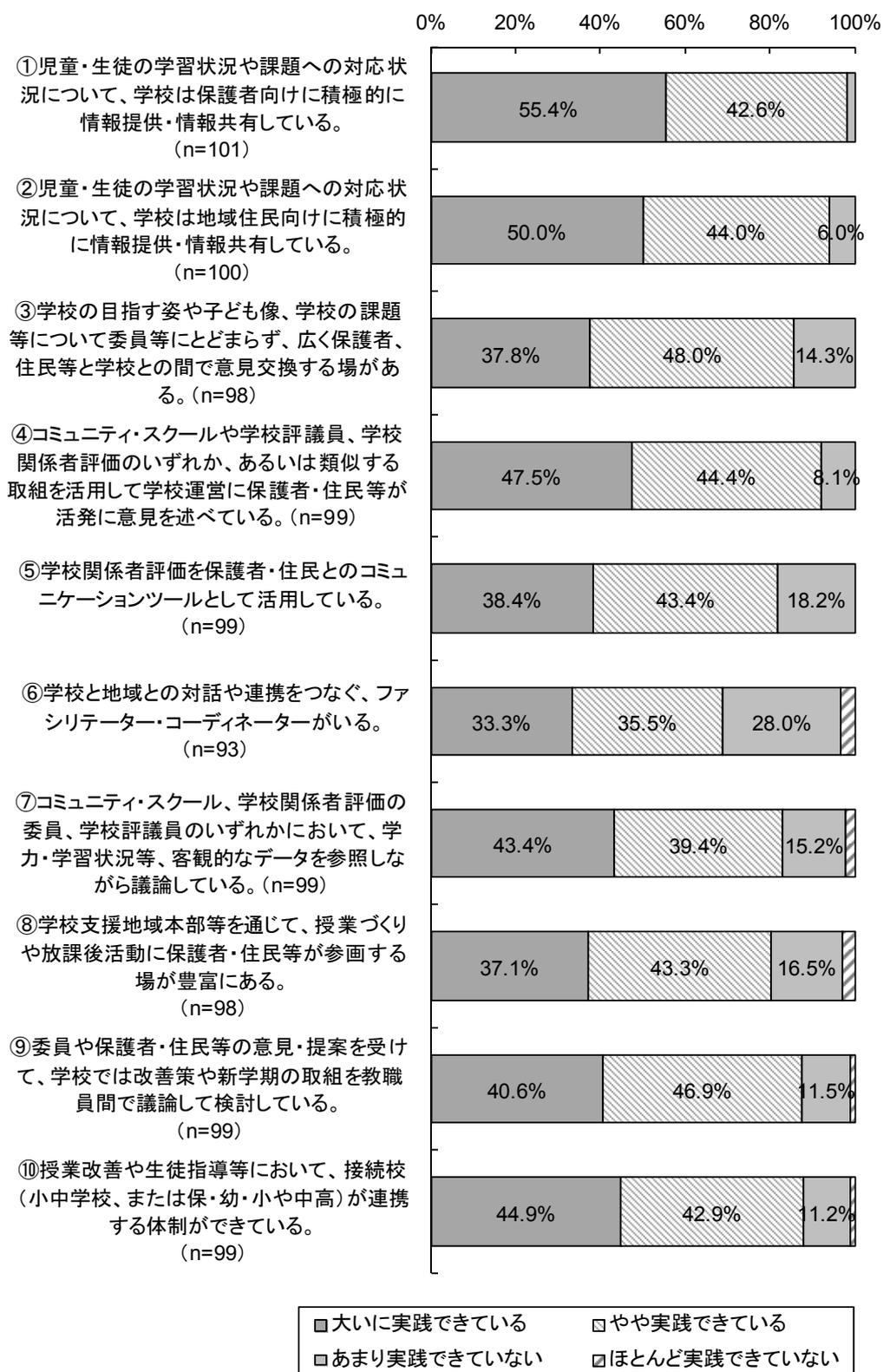


グラフ 3-9：地域の大人が学び合い、共に成長できる場となっていない学校の

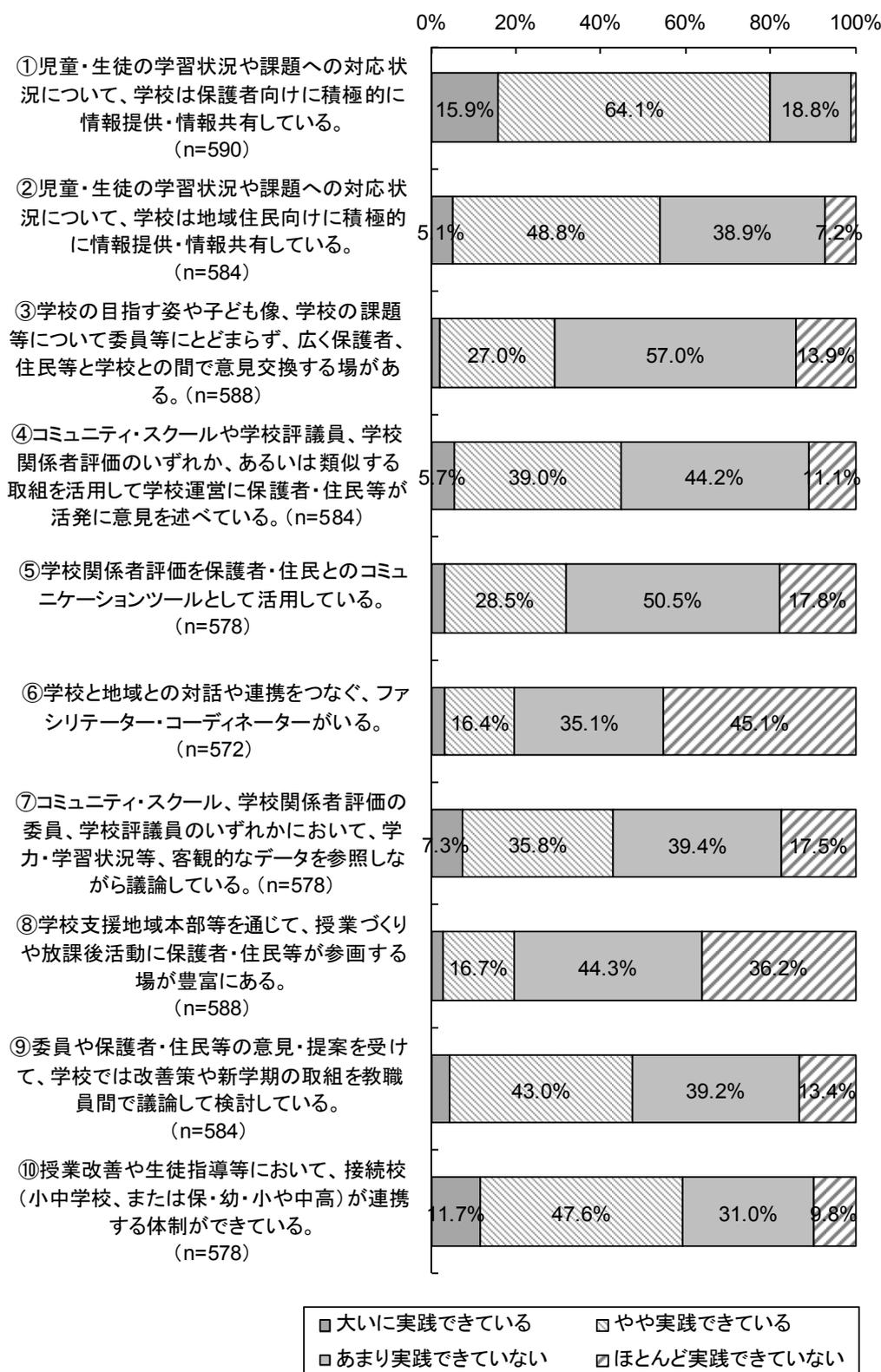
地域との連携活動の取組状況（グループ B）



グラフ 3-10：学校が『地域づくりの核』となっている学校の
地域との連携活動の取組状況（グループ A）



グラフ 3-11：学校が『地域づくりの核』となっていない学校の
地域との連携活動の取組状況（グループ B）



これらの結果から、地域との連携がうまくいっていない学校では、地域との連携を促すツール・仕掛けに関する取組や学校運営に意見を述べる取組が弱く、また住民や保護者の声を反映する体制づくりも十分ではないところが多いことが分かった。

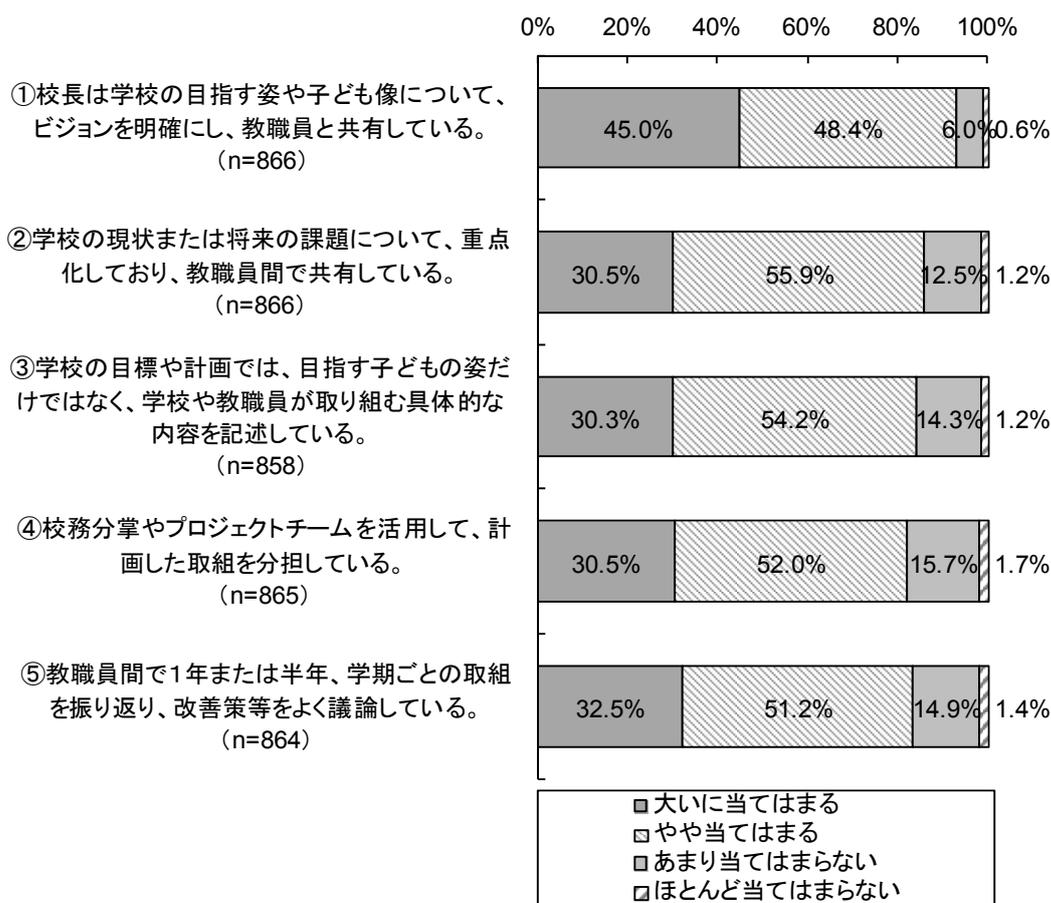
4. 学校の組織運営・マネジメントの現状について

①学校の組織運営・マネジメントに関する取組状況

本アンケートでは、学校・教育委員会関係者に「学校の組織運営・マネジメントに関する取組状況」についても調査した。その結果はグラフ 4-1 から分かる通り、全ての質問項目について、「大いに当てはまる」、「やや当てはまる」を選択した回答者が全体の8割以上にも上っており、学校の組織運営・マネジメントに対して十分に取組んでいるという感触を持っている学校が多いということが分かった。

その一方で、15%前後の人々は学校の組織運営・マネジメントの取組状況について否定的な回答であり、課題が残っている学校も一定割合あることが分かった。

グラフ 4-1：学校の組織運営・マネジメントの状況



②地域との連携の現状と、学校の組織運営・マネジメントに関する取組状況の関連性

グラフ 4-2、4-3 では、地域との連携の現状に関する「授業づくりに保護者・住民の参画・協働が進んでいるか」という質問項目における回答によって、下記のように回答者をグループ分けし、各グループの地域との連携に関する取組状況を比較した。

- ・ グループ A：授業づくりへの参画・協働が進んでいることに「大いに当てはまる」と回答した学校
- ・ グループ B：同質問に「あまり当てはまらない」または「ほとんど当てはまらない」と回答した学校⁶

グループ A では、ほとんどの学校の組織運営・マネジメントの取組事項に対して、9 割以上の回答者が「大いに当てはまる」・「やや当てはまる」と答えており、「大いに当てはまる」と答えた回答者は 5 割以上にもなった。こうした学校では、特定の学校の組織運営・マネジメントに力を入れているというよりは、全般的に学校の組織運営・マネジメントに積極的に取り組んでいることが分かった。

その一方でグループ B では、ほとんどの学校の組織運営・マネジメントの取組事項に対して、8 割近くの回答者が「大いに当てはまる」「やや当てはまる」と答えた一方で、「大いに当てはまる」と答えた回答者は約 2 割に留まった。

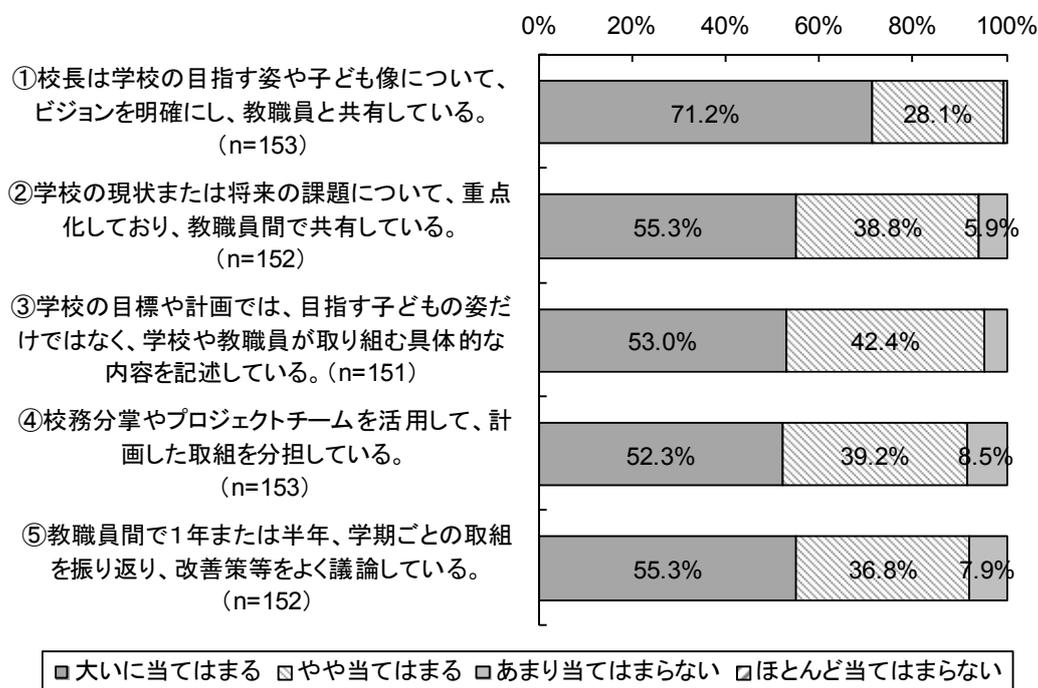
この特徴は他の分析結果からも同じように示唆される。地域との連携の現状に関する下記の質問項目についてグループ A とグループ B を比較する（グラフ 4-4 から 4-9）と、グラフ 4-2、4-3 と同様の傾向が現れていた。

- ・ 学校の組織運営に保護者・住民の参画・協働が進んでいる（計画づくりや評価への参画、校長への意見・提案など）（グラフ 4-4、4-5）
- ・ 学校は地域の大人が学び合い、共に成長できる場（「大人の学びの場」）となっている（グラフ 4-6、4-7）
- ・ 学校づくりを通じて地域コミュニティの結び付きが強くなり、学校は『地域づくりの核』となっている（グラフ 4-8、4-9）

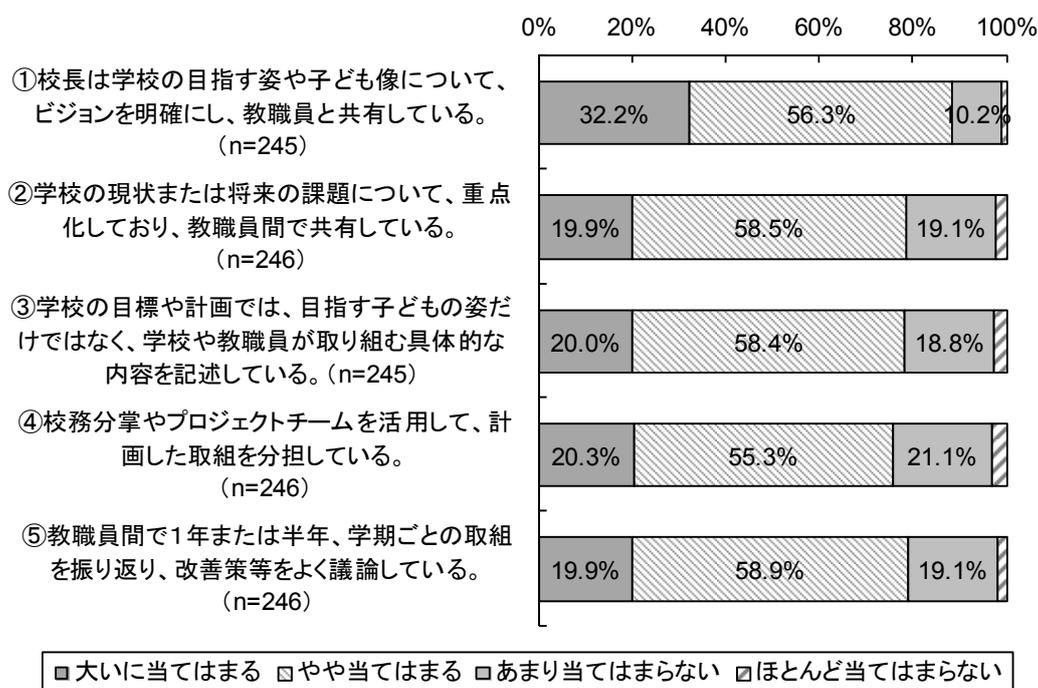
これらの結果から、多くの学校において組織運営・マネジメントの取組を行っているという認識はあるものの、「授業づくりに保護者・住民の参画・協働が進んでいる」学校では、組織運営・マネジメントに関する組織的な取組を、そうではない学校よりも強く推進していることが分かった。

⁶ 「やや当てはまる」との回答は、肯定的な回答ではあるものの、「大いに当てはまる」との回答ほどは達成実感が弱いことから、好事例を抜き出す観点からグループ A には含めなかった。

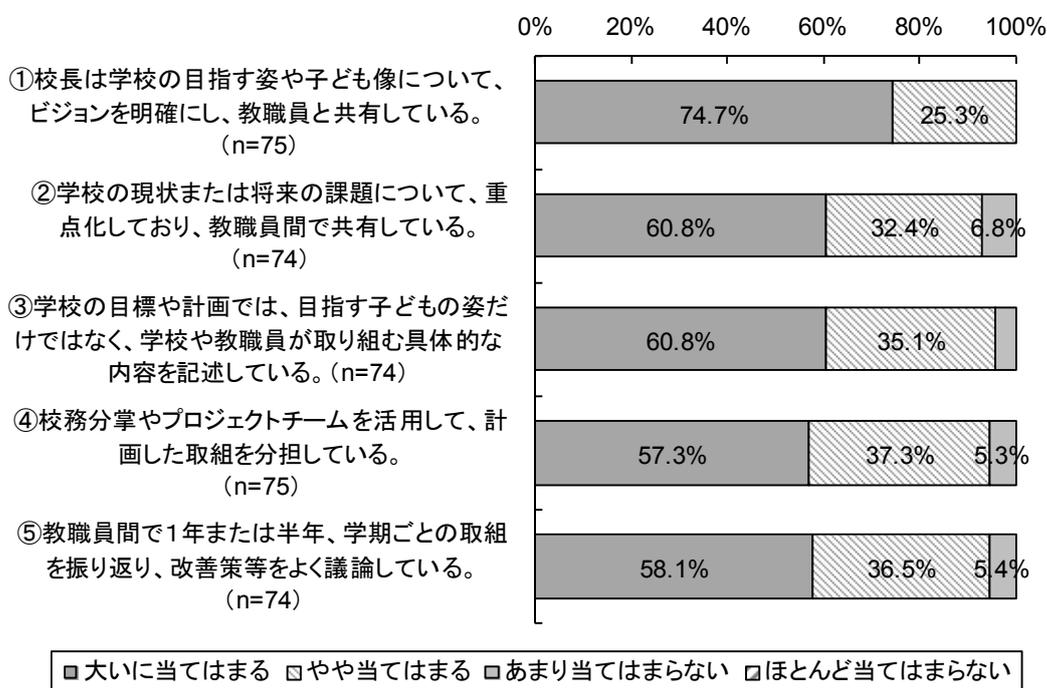
グラフ 4-2：授業づくりに保護者・住民の参画・協働が進んでいる学校の
組織運営・マネジメントに関する取組状況（グループ A）



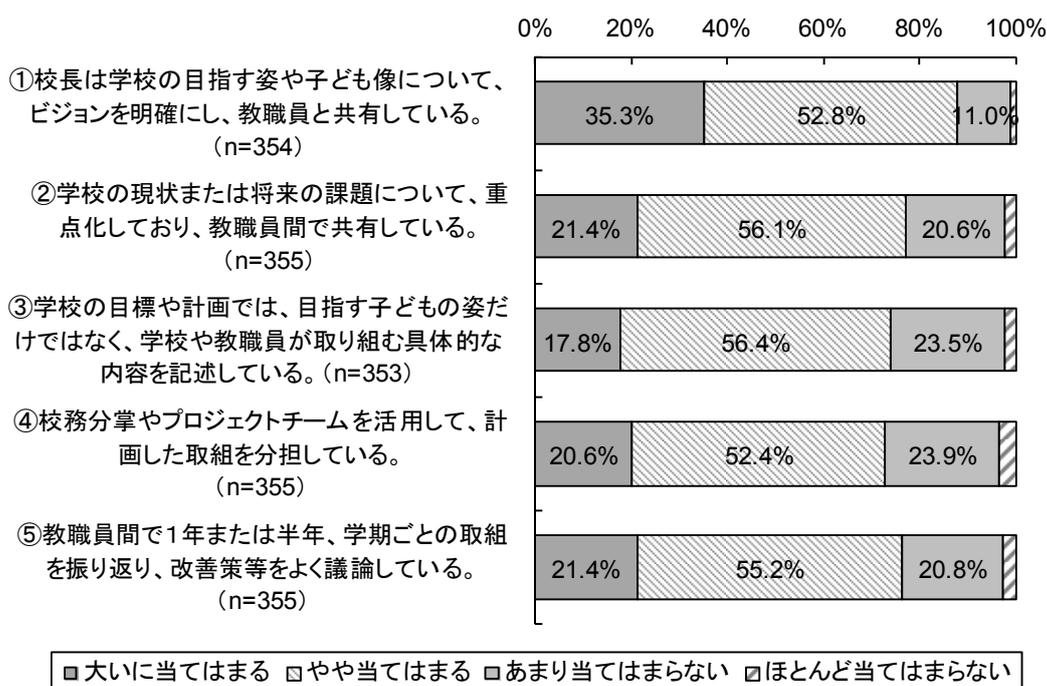
グラフ 4-3：授業づくりに保護者・住民の参画・協働が進んでいない学校の
組織運営・マネジメントに関する取組状況（グループ B）



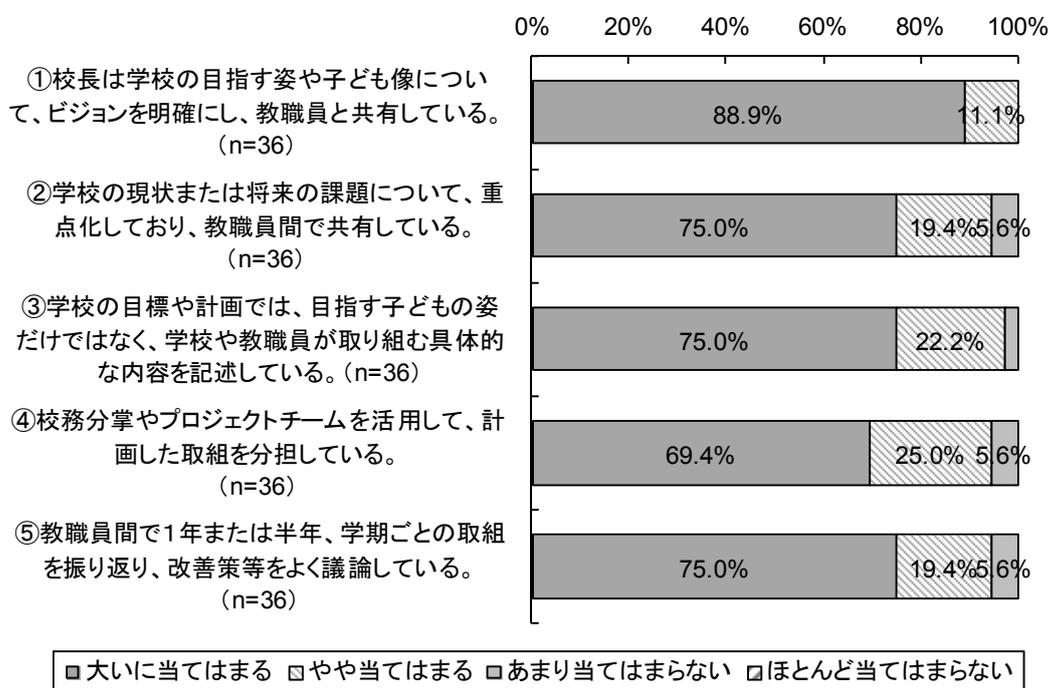
グラフ 4-4：保護者・住民等の意見を踏まえた改善策を議論している学校の
組織運営・マネジメントに関する取組状況（グループ A）



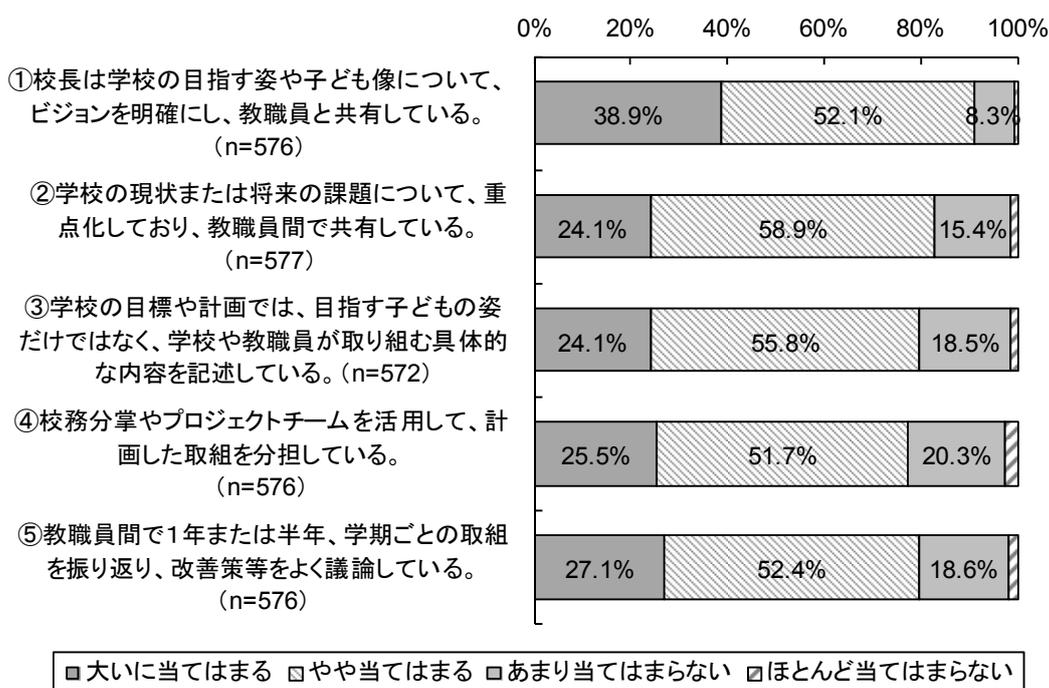
グラフ 4-5：保護者・住民等の意見を踏まえた改善策を議論していない学校の
組織運営・マネジメントに関する取組状況（グループ B）



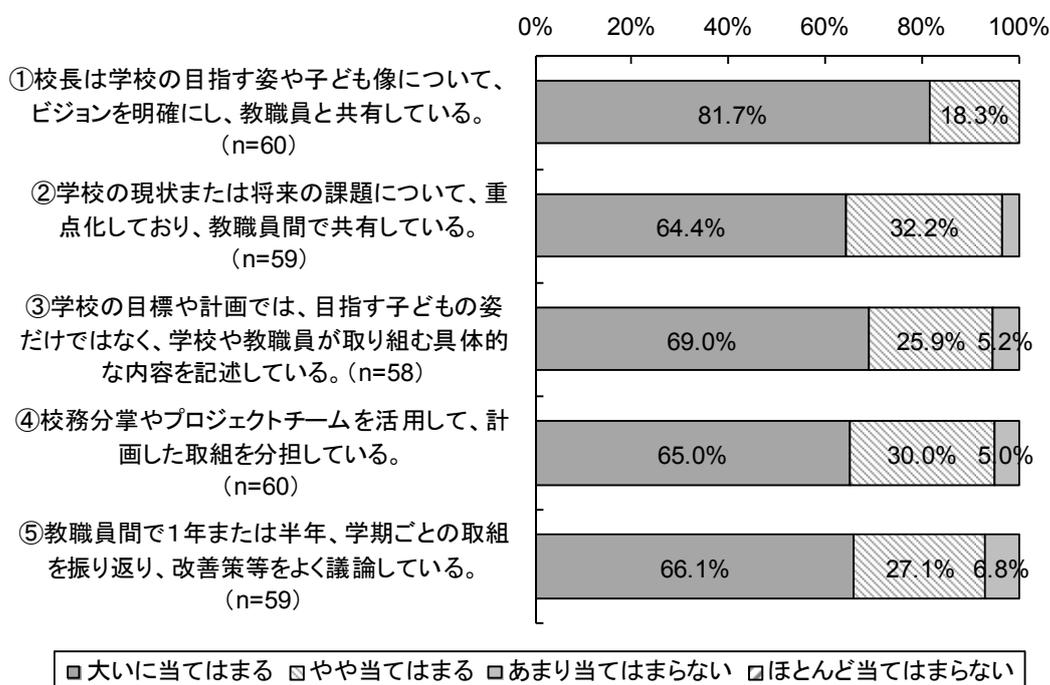
グラフ 4-6：地域の大人が学び合い、共に成長できる場となっている学校の
組織運営・マネジメントに関する取組状況（グループ A）



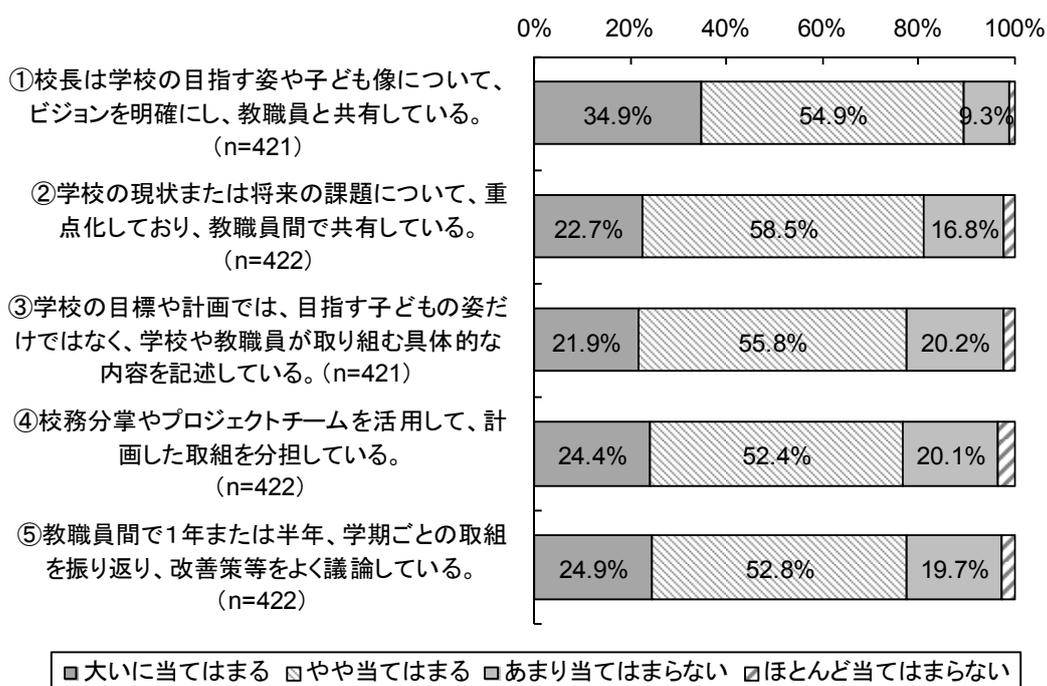
グラフ 4-7：地域の大人が学び合い、共に成長できる場となっていない学校の
組織運営・マネジメントに関する取組状況（グループ B）



グラフ 4-8：学校が『地域づくりの核』となっている学校の
組織運営・マネジメントに関する取組状況（グループ A）



グラフ 4-8：学校が『地域づくりの核』となっていない学校の
組織運営・マネジメントに関する取組状況（グループ B）



③地域との連携と、学校の組織運営・マネジメントに関する取組状況の関連性

回答者を組織運営・マネジメントの取組に積極的な学校と、消極的な学校にグループ分けし、それぞれのグループが地域との連携に関わる活動についてどれくらい取り組んでいるのか比較した。

グループは、学校の組織運営・マネジメントに関する取組状況の回答を総合得点化することで分類した。学校運営・マネジメントに関する取組状況の回答について「大いに当てはまる」を2点、「やや当てはまる」を1点、「あまり当てはまらない」を-1点、「ほとんど当てはまらない」を-2点として、回答者ごとに総合得点を計算し、総合得点が1点以上の回答者を「積極的」、-1点以下の回答者を「消極的」と分類している。

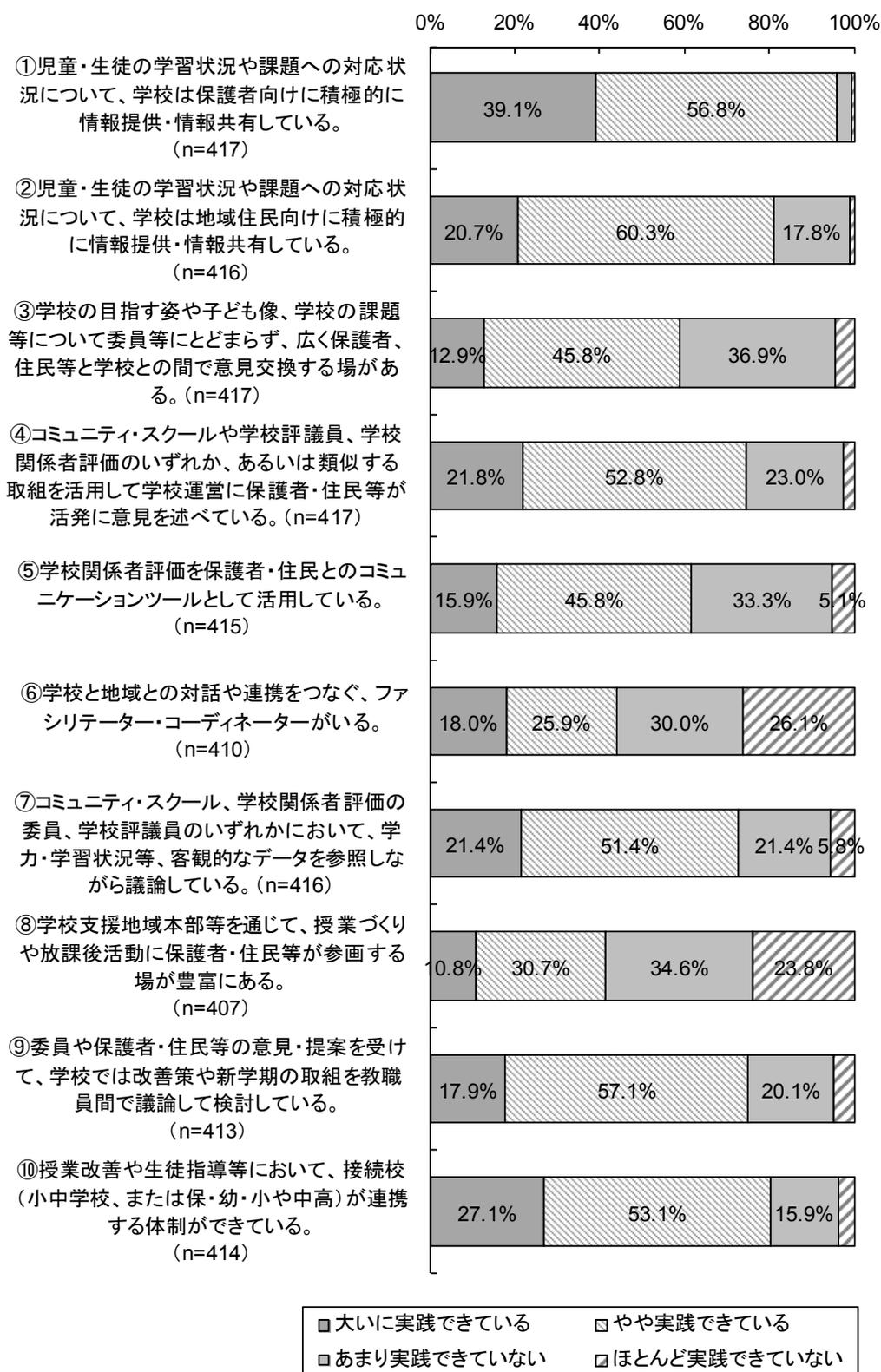
グラフ4-10、4-11から分かる通り、組織運営・マネジメントに積極的な学校では、消極的な学校よりも地域との連携に積極的に取り組む傾向があることが分かった。組織運営・マネジメントに積極的な学校では、特に下記の2つの質問項目に対して「大いに実践できている」、「やや実践できている」とした回答者が約7割程度にも上った。その一方で消極的な学校では、同質問項目に対して「大いに実践できている」、「やや実践できている」とした回答者は約2割程度であり、顕著な差が見られた。

- ⑦ コミュニティ・スクール、学校関係者評価の委員、学校評議員のいずれかにおいて、学力・学習状況等、客観的なデータを参照しながら議論している。
- ⑨ 委員や保護者・住民等の意見・提案を受けて、学校では改善策や新学期の取組を教職員間で議論して検討している

また組織運営・マネジメントに消極的な学校では、特に下記の2つの質問項目に対して否定的な回答が約8割近くにも上っているという特徴があった。

- ⑥ 学校と地域との対話や連携をつなぐ、ファシリテーター・コーディネーターがいる
- ⑧ 学校支援地域本部等を通じて、授業づくりや放課後活動に保護者・住民等が参画する場が豊富にある

グラフ 4-10：学校の組織運営・マネジメントに積極的な学校の
地域との連携活動の取組状況



グラフ 4-11：学校の組織運営・マネジメントに消極的な学校の
地域との連携活動の取組状況

